

# 長野の林業

No.  
392  
2024.3.10

## 特集

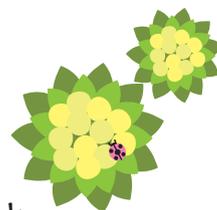
### トピックス

### コラム 地域の話 県森連だより

### 主伐・再造林特集（第5回）

- ・森林フォーラム
- ・天龍村五輪レガシー材活用
- ・山菜情報
- ・林業士リレーコラム
- ・上伊那地域/南信州地域

忘れない  
山の恵みと  
火の始末



山火事予防運動実施中



令和5年度森林フォーラム会場（県立長野図書館）



講演（株）さとゆめ 嶋田 俊平 氏



令和5年度長野県ふるさとの森林づくり賞受賞者の皆様



令和5年度長野県きのご料理コンクール受賞者の皆様

森林の多面的な利活用に関する取組を県内において更に推進するため、令和6年2月9日（金）に会場（県立長野図書館）とオンラインの併用で「森林フォーラム」を開催し、今後の展望や取組を行う上でのポイント、実践事例の普及を図りました。

また、森林フォーラムにおいて、「長野県ふるさとの森林づくり賞」及び「長野県きのご料理コンクール」の表彰式を開催しました。



長野の林業  
フルカラー版



主伐・再造林  
特集（第5回）

主伐・再造林に関する取組状況についてお届けする特集です。

「林地未利用材、うまく集めて、有価物」をテーマに林地未利用材活用ミーティングを開催しました。

令和6年1月16日に上田市の丸子文化会館セレスホールにおいて、再造林の妨げとなる、主伐後に残された林地未利用材の木質バイオマス資源としての有効活用と再造林の省力化を図るためのコツや先進事例を紹介するミーティングを開催しました。

①ノースジャパン素材流通協同組合の鈴木理事長様からは「C、D材利用による木質バイオマス発電事業の実務成功ポイント」として

(ア)土場の収入は、納入に係る運賃によって上下するため、フルトレラーが入れる国道・県道・市町村道の脇に設けるのが有効

(イ)地域の林業振興の要である地元森林組合が窓口となり、他の森林組合に協力を求め丸太を集めるのが成功パターン

(ウ)間伐時代の路網集材とは一線を画し、タンコロ・末木枝条を林道脇に集積するシステムが鍵

(エ)全木集材で林地が片付けられた場合は、造林事業者から地拵えの経費を素材生産業者に分配する制度の検討が必要

(オ)「ありがたいの声かけ」「休憩場所、自動販売機の用意」「納入可能時間の工夫」により、運転手がまたこの工場に来たいという環境づくり

などの具体的なコツの話がありました。

②平澤林産(有)の平澤代表取締役様からは「架線を活用した全木集材の取組」として



林地未利用材活用ミーティングの開催会場の様子

(ア)フォワードは維持管理費が高むことから、費用対効果の面からも現地の状況に応じて積極的に架線の活用を推進

(イ)架線系の列状間伐は車両系と比較して労働生産性の点でも優位であり、なおかつ、林地が荒れず環境の面からも優良

(ウ)全木集材となる架線系は素材生産量に林地残材がプラスされ、全体の生産量が大きく増加、事業費の収益性が向上、また造林作業は低コスト化が可能

(エ)林地残材を含めて出材した材を安定して販売するには、中間土場が必要で、自社の中間土場で未利用材をチップ化して出荷

など、現場の経験から具体的な報告がありました。

③林地未利用材活用のコツをテーマに発表者と会場参加者によるトークセッションでは

会場参加者から、「5年程前から主伐が進み、県内では先進地であるが、いずれの林業事業者も再造林には様々な課題を抱く」「車両系での枝条の集材は採算に合わないため、スイングヤーダを活用し、メインの幹線道まで全木集材し、山土場での破碎を模索している状況」等の意見があり、会場からの質問も交えることで、基調講演や先進事例の内容をさらに深める展開になりました。

その他林業機械を使った効率的な林地未利用材の集積方法や、林地未利用材の活用に取り組む北海道と岩手県の先進地を動画で紹介、原木安定供給に向けた今後の対応等の報告がありました。今回のミーティングにより、多様な豊かな森林づくり、そして力強い林業の発展に役立つことを期待します。



主伐後の林地未利用材を集める様子

【森林づくり推進課 造林緑化係】

森林認証材で「東京オリンピックレガシー」を製作しました！ ～根羽村・川上村・天龍村の取組～

森林認証材とは？

適切な森林管理や持続可能な森林経営が行われている森林と、適正に木材の流通加工を行う事業者を第三者機関が審査、認証し、その森林から生産・加工された木材や木製品に独自のマークを付けて区分したものが森林認証材です。



▲森林認証制度の詳細  
(長野県公式HP)

日本の木材活用リレー〜みんなで作る選手村ビレッジプラザ〜への参加

平成29年に公益社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が「日本の木材活用リレー〜みんなで作る選手村ビレッジプラザ〜」に参加する事業協力者を公募し、長野県から根羽村、川上村、天龍村が森林認証材の部材供給事業者として採用されました。

そして、平成30年にF M認証※を取得した森林から地域の林業事業

業体と連携して、県産材のスギ(根羽村)、カラマツ(川上村)、ヒノキ(天龍村)を伐採し、原木で122㎡(製品材積32㎡)の良質な森林認証材を提供しました。



▲提供された部材(根羽村のスギ、川上村のカラマツ、天龍村のヒノキ)

令和元年にはCoC認証※を取得している根羽森林組合等で加工され、建設現場に提供部材を輸送し、令和2年に選手村ビレッジプラザが完成しました。

提供部材の輸送に合わせて出発式の実施や銀座NAGANOにおけるPRイベントの開催、記録映像の製作を行うとともに、木材関連セミナー等で活動報告を実施することで、森林認証材の普及啓発を行いました。

※森林認証には、森林を対象としたF M認証(森林管理)と、木材の流通・加工業者を対象としたCoC認証(流通・加工)の2つの認証があります。



▲選手村ビレッジプラザは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の期間中に、選手が心地よく滞在できる空間となりました。

提供部材を活用して、オリンピックレガシーを製作

オリンピック終了後は、選手村ビレッジプラザは解体され、各自治体へ部材の返却が行われました。

県内の3村では、返却された部材を活用して共通のレガシーとして、ベンチとテーブルを製作することとしました。

製作したベンチとテーブルは、根羽村では役場のオリンピック展示スペース、川上村では役場の待合スペース、天龍村では新設した総合体育施設へ設置されており、オリンピックレガシーとして、森林認証材の普及啓発に役立っています。

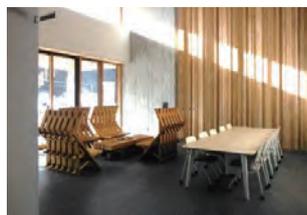
お近くへお出かけの際は、ぜひ手に触れてみてください。



▲根羽村役場の展示スペース



▲天龍村総合体育館



▲川上村役場の待合スペース

ふるさとの森林づくり賞(信州の木利用推進の部)長野県知事賞を受賞!

3村での一連の取組で、県産材の利用促進や森林認証材の普及啓発に貢献した功績が認められ、令和5年ふるさとの森林づくり賞の信州の木利用推進の部において、長野県知事賞を受賞しました。長野県では引き続き、県産材や森林認証材の需要拡大に取り組みでいきます。

【県産材利用推進室】



伐木安全講習の様子

上小林業士会会長、長野県林業士会副会長を務めさせていただいております田村清です。今回リーコラムへの執筆のお話がありましたので現在私が林業士として活動している内容、そして感じているところを少しお話ししたいと思います。

主な活動としては、企業からの依頼で森林・野外活動系のイベントの企画運営、いくつかの市民団体から森林整備活動の技術・安全



# 林業士

このコーナーでは、林業士の活動状況などをリー形式でお届けしていきます



伐木のためのロープワーク実習

指導の依頼、そして自然体験系の指導者養成や指導者のスキルアップ講座の講師依頼、体験学習や探求学習の指導といったところです。中でも市民活動としての里山整備に関する依頼が徐々に増えているのが最近の傾向です。

これは里山地域で暮らす人たちの目にも周辺の森林が荒廃しているさまを目の当たりにして問題意識を持ち始めていることの表れだと思います。実際昔は20〜30年で皆伐を繰り返していた里山の薪炭林も燃料革命以降60年以上そのまままで放置され成長し続けているケースも珍しくありません。いくら広葉樹といえども一斉に地上部分が肥大化すればもとより岩山が多く森林土壌の薄い信州の山、特に山脚部分は表土が耐えられると思えません。私自身砂防工事や

治山工事での支障木伐採の仕事もすることがあるので里山の肥大化した林分が崩壊しているさまを目にすることも多いのです。しかしながら林業人口が急激に減少していることもあり集落に近い里山まではなかなか整備が行き届かないようです。

私は森林整備に関する講習依頼を受けたとき、まず技術的な話や安全に関する話より先に現状森林が抱えている問題、そうなっている経緯、このまま放置すると将来どうなるのか、等々潜在自然植生や森林の遷移の話を変えて説明することにしています。先人たちの森林との関わり方やそれによる植生の変化、どう整備をすれば自分がイメージする森林に将来近づくかを理解してもらいます。そうすることで森林をより身近に感じ、直接的な問題として取り組んでもらえるようです。

森林を説明するとき、その切り口はじつに様々でそれらの関連性は複雑に絡み合っています。歴史や文化とも関わりの深いものですし、動植物の生態学はもちろん気候や地理地質、地球史、民族や信仰、社会学に至るまでも膨大なものです。まだまだ自分の知識は足りていないですしうまく説明もできていない。このような依頼を受けるたびにさらに知識を深め

研鑽を重ねなければならぬと実感している次第です。

## プロフィール

田村 清 60歳

上小林業士会会長

長野県林業士会副会長

森林インストラクター

愛知県出身。大学進学を機

に長野県に移住。30代から

森林組合で現場作業を経験

のち民間の事業体で林業に従事。



## 林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。



## 上伊那農業高等学校で林業体験学習を開催

上伊那地域振興局では毎年、上伊那農業高等学校里山コースの2年生の皆さんに対し林業体験学習を実施しています。今年は今和6年2月19日に、林業に従事する方から普段の仕事についてお聞きするとともに、高性能林業機械による伐採見学、シミュレータを使ったハーベスタ操作体験を行いました。さらに、初の試みとして、林業を学ぶ先輩である林業大学校生によるミニオープンキャンパスも開催しました。

生徒の皆さんは、地元森林組合の方が話される仕事のやりがいや、進学・就職の方法などに真剣に耳を傾けていました。ハーベスタを使った伐採見学では、間近でみる機械の迫力に驚き、その後の操作体験では、シミュレータを取り囲んで画面に映し出される友達のハーベスタ操作を見守りながら一喜一憂する様子が見られました。操作体験の合間には、林業大学校生にキャンパスライフなどについて個別に質問をすることもできました。

この体験を通じて、森林・林業に対する興味をさらに深め、林業関係業界への進学や就業のイメージが具体的に描きやすくなることで、将来の林業の担い手増加につながることが期待されます。



ハーベスタによる伐採見学



シミュレータ操作体験

【上伊那地域振興局林務課】

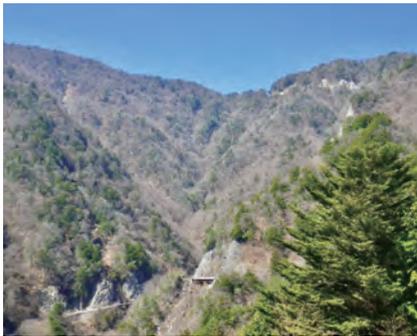
## 地域を繋ぐ林道、千遠線が開通します

ちとお

飯田市千代地区を起点として、泰阜村地籍を経由し飯田市南信濃押出地区に至る総延長約26・8kmの林道が、62年間の開設期間を経て令和5年度末に開通します。

昭和37年(1962年)から千代村(現飯田市)により開設が始まり、昭和43年(1968年)からは県営による施工となりました。橋梁や隧道、岩盤掘削や路側擁壁、切取法面の緑化工事など、携わった多くの現場従事者の苦労がうかがえます。

多様な森林資源の有効活用はもとより、自然とのふれあいを求める観光利用や地域活動の場として、地域の活性化に資する道となることが期待されます。



【南信州地域振興局林務課】



# タラノキを栽培してみませんか



タラノメは、「山菜の王様」と呼ばれ人気が高く、独特のほろ苦さは食欲をそそります。主には天ぷらとして食されています。

タラノメは、タラノキという植物の新芽です。タラノキはウコギ科の落葉低木で、陽当たりの良い場所を好み、樹高は3〜5mになり、幹や枝にトゲがあるのが特徴です。

栽培は比較的容易で、以下にその方法を紹介します。

栽培の適地は、陽当たりがよく水はけの良い場所です。水はけが悪い休耕田等を利用する場合には、高畝を設け、排水対策を講じる必要があります。



写真左：タラノメ発芽状況  
写真右：種根からの発芽状況

最も一般的なタラノキの増殖方法は、タラノキの根を15cm程度に切り分けた「種根」(写真)を土中に植付けて行う「根挿し法」です。

種根の植え付け時期は、3月下旬から4月中旬とされていますが、当センターが行った4月と12月の種根植付け時期の比較試験では、12月植付けの方が残存率(発芽当年の残存株数/種根植付数)が高い結果が得られました(図)。これは、昨今の温暖化の影響により春先の気温が高いことが原因と考えられます。

タラノキ栽培で、利用されていない里山や農地の有効活用を図ってみたいかがでしうか。

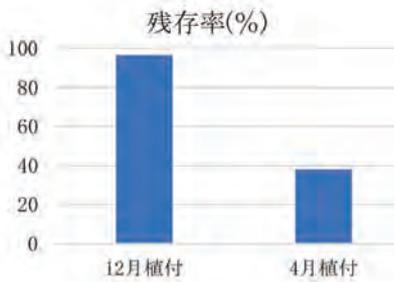


図 種根植付け時期による残存率比較試験

残存率：発芽当年の残存株数/種根植付数

【林業総合センター】



## 「緑の募金」にご協力をお願いします。

緑化推進特別強調期間令和6年4月1日(月)～5月31日(金)

「緑の募金」は、誰でも「寄付」を通じて、身近な地域をはじめ国内外のさまざまな森林づくりや緑化推進、自然環境教育に参加することができる仕組みです。



長野スタジアムでの街頭募金活動



長野駅前での街頭募金活動

緑の募金1万2,000円以上の寄附をいただいた企業のうち希望者には、名入れの木製(木曾ヒノキ)プレートを贈呈します。企業名はレーザー彫刻いたします。また、募金された企業の企業名は(1万円以上)当基金で発行しています機関誌や市町村に配布するチラシ、当基金のホームページに掲載しています。



～ 緑の募金で進めようSDGs ～





長野県労働局長登録教習機関 長野県知事認定職業能力開発校

# 一般社団法人 中部労働技能教習センター

労働安全衛生法に基づく資格取得講習を実施しています

## 未来に活かせるライセンス

## 50年の歴史と32万人の実績

中部労働技能教習センターは、昭和49年の設立以来、常設の多目的教習機関としてクレーン及び移動式クレーンの実技教習並びに車両系建設機械、小型移動式クレーン、フォークリフトなど、各種技能講習および特別教育の資格取得講習を実施しています。

受講しやすいきめ細かな年間計画により、どなたでも運転資格等が取得できるように、経験豊かな講師陣がお待ちしています。

### 当センターで取得できる主な資格

#### 実技教習（免許教習）

- ・クレーン・デリック運転士免許
- ・移動式クレーン運転士免許

#### 技能講習

- ・車両系建設機械（整地等）運転
- ・車両系建設機械（解体用）運転
- ・車両系建設機械（基礎工事用）運転
- ・不整地運搬車運転
- ・高所作業車運転
- ・小型移動式クレーン運転
- ・床上操作式クレーン運転
- ・玉掛け
- ・フォークリフト運転
- ・ショベルローダー等運転
- ・はい作業主任者

#### 特別教育

- ・クレーン運転
- ・小型車両系建設機械（整地等）運転
- ・ローラー運転
- ・高所作業車運転
- ・フォークリフト運転
- ・巻上げ機（ウインチ）運転
- ・ロープ高所作業
- ・フルハーネス型墜落制止用器具



< 長野県下、4会場で講習を実施しています >

※実施会場が限られている種目があります。詳しくは当センターまでお問い合わせください。

飯田会場 / 〒395-0154 長野県飯田市下殿岡478-1  
(本部)

<https://www.ginosenta.or.jp>  
E-mail: info@ginosenta.or.jp

☎ 0265-25-4444 FAX 0265-25-4455

中部労働技能教習センター



長野会場 / 〒381-1225 長野市松代町東寺尾2681-3  
松本会場 / 〒390-0851 松本市大字島内(小宮)729-1  
佐久会場 / 〒385-0032 佐久市常和1353-1-13

FAX 026-278-9255  
FAX 0263-47-4443  
FAX 0267-78-3935

Webサイト

長野県森林組合連合会の第87回通常総会が、令和6年2月27日に長野県林業センタービル（長野市）にて、来賓・会員の皆様に多数出席を賜り、開催されました。当日は、森林組合綱領の唱和、林副会長の開会に続き、藤原会長による挨拶が行われ、ご来賓の皆様からそれぞれ祝辞をいただきました。

議事は、北アルプス森林組合の割田代表理事組合長を議長に、第1号議案・令和5年度事業報告等から、第9号議案・役員退任慰労金の贈呈について審議の上、原案どおり承認・決定されました。また、本年は任期満了に伴う役員選挙が行われ、9名の理事と3名の監事が当選しました。



▲藤原会長による挨拶



▲議事の様子

# 令和6年度 長野県森林組合連合会 通常総会

## 系統利用 優良森林組合

【木材販売事業】  
長野・上伊那  
松本広域・北信州  
信州上小

【購買事業】  
信州上小・松本広域  
長野・飯伊  
上伊那

## 令和5年度 事業報告

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症上の位置付けが5類に移行したことにより、年の後半には経済活動がほぼ復活した一方、国際情勢や円安を背景に諸物価が上昇し生活に影響を与えた一年でした。

指導事業では、10月から開始したインボイス制度を中心に、森林組合の経営力向上を始めとする各種研修会の開催や情報提供に努めました。

販売事業では、木材取引価格の低下や合板工場からの受人制限など木材流通には厳しい状況にありましたが、森林組合と協力しながら販路開拓に務めた結果、年間取扱量は22万1千m<sup>3</sup>、取扱高は29億円となりました。加工事業は県内土木工事向けの需要堅調により、計画を上回る結果となりました。

また、木材取引関係で最も重大な出来事として「信州F・POWERプロジェクト」の中核を担ってきた征矢野建材(株)が8月に民事再生手続を開始したことが挙げられます。当会は同社への木材供給の中心的位置にあったことから、多額の損失を計上しました。

見直しを図ってきた木材販売システムの運用を開始し、業務の効率化に取り組みました。事業全体では、取扱高33億円、経常利益はおよそ1億円となりました。

## 令和6年度 事業計画

本年は、木材の需給動向を見極めつつ、3年目を迎える新系統運動の目標達成に向け、様々な事業展開をしてまいります。また、4月から徴収が始まる「森林環境税」ならびに、第4期目が開始した「長野県森林づくり県民税」について森林整備の充実や林業の発展に向けて有効に活用されるよう市町村や県等へ働きかけてまいります。

健全で開かれた組合経営のもと、会員組合の事業が充実するよう組合からの要望等を踏まえ研修会や指導監査を行うほか、各種情報提供、相談業務に努めます。

木材の市場価値が高まるよう生産者への助言等を行うほか、会員、他県森連との連携等を通じて有利販売を行うべく、改良した木材販売システムによる業務効率化に努め、会員への経済的還元を図ります。また、経済的損失を被った「信州F・POWERプロジェクト」の動向を注視し、森林組合系統へさらなる累が及ばないよう適時、適切な対応に努めます。

必要性が益々高まる林業ICT活用への支援を行い、会員全体の技術の向上や省力化と機器の回転や普及を進めます。

林業、森林組合の発展や森林整備の充実につなげるよう努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。



**林業適地・不適地ゾーニング研修**

1月11日～12日（伊那市）の二日間と1月25日～26日（上田市）の二日間、『地形から読む 林業適地・不適地ゾーニング研修会』を開催し、県内の森林組合や林業経営体、県職員など25名が参加しました。

主伐再造林への転換を確実に進める中で、林業に適した森林を様々な観点から見極めゾーニングすることが重要になっています。

今回は、昨年に引き続き元長野県職員で「CS立体図」を開発するなど地形解析や山地防災のエキスパートである、株式会社ジオ・フォレスト代表取締役の戸田 堅一郎氏を講師に招き、ゾーニングの考え方や地形判読、CS立体図の活用方法等について学び、長野庁が開発した森林ゾーニングツール「もりぞん」を使って防災面と収益性の観点から森林のゾーニングを行う方法について習得しました。

また、上伊那郡箕輪町における「もりぞん」を使ったゾーニングの事例について、箕輪町役場みどりの戦略課森ビジョン推進係の井上貴之氏と合同会社ラーチアンドパイン事業主任の杉本由起氏に講演をいただきました。

また、2日目の午後はグループワークを行い、地形データや航空レーザータ、既存の写真データ、インフラデータ等手に入るデータをかき集め



▲コミュニケーションツールとしての「もりぞん」の有用性を確かめることができた（上田会場）

て、地理情報処理ソフト「QGIS」上でそれらの情報を基にゾーニングと施業提案を各班で作成し、発表を行いました。日頃の業務で培った施業提案の企画力を「もりぞん」を使って、さらに解像度を高めた提案に仕上げました。一方、森林・林業の知識があまり無い方にもデジタルでわかりやすく伝えられてしまう故に伝え方の難しさを感じたという意見もあるなど、これからの森林管理に向けて大変充実した研修会となりました。

**スマート林業技術導入研修**

2月16日、安曇野市のもくりゆう館で「スマート林業技術導入研修」が行われ、県内の森林組合や林業経営体、市町村や県の職員19名が参加しました。木材検収と日報管理の業務効率化をテーマに、スマホアプリや業務管理ソフトを展開する5社に製品やサービスの紹介していただきました。

スマホアプリでの木材検収は、需要側と供給側での検収結果の合意に課題があるものの、AIによる小口の認識能力が向上し、LiDAR（レーザー計測）も可能になったことで高精度な検収が可能になっています。また、建設業界などでは一般化しつつある作業日報の電子化ですが、林業では作業環境や作業種の幅広さから紙での運用が多く、PCへの転記作業など総務担当者の負担が増え、客観的な進捗分析も難しい状況でした。しかし、林業経営体が開発した日報管理アプリや、建機メーカーが開発に参加したアプリなど林業に特化したサービスが展開されて

**紹介されたアプリ&サービス**

- 株式会社百森  
「林業専用日報サービス "Wooday"」
- 株式会社ジツタ  
「木材検収システム」  
「日報管理システム」
- 晃洋設計測量株式会社  
「丸太検知アプリ」  
「Forest Mobile」
- 株式会社マプリー  
「mapry 林業」
- 株式会社 woodinfo  
「検知丸AI」  
「林業日報管理システム」  
「野帳入力システム」



▲各社の木材検収アプリを実際の丸太場で試す



▲各社のブースで質問する参加者

いるほか、木材検収アプリと組み合わせる総合的なSCM（サプライチェーンマネジメント）を可能にするサービスまで登場しています。

日報管理アプリはデモ体験が参加者の端末でその場で出来たほか、木材検収は会場併設の中信木材センターの土場にて実際にアカマツの丸太極を計測して、その使い勝手や性能を確かめていました。

スマート林業技術による業務効率化には、まず現在どのような業務を進めているか、自組織の状況を分析することが不可欠です。実際に製品やサービスを試すことで、導入への検討材料となる研修会になりました。

森林組合経営者育成研修



▲グループに分かれての研修会の様子

1月12日、安曇野市のもくりゅう館で「森林組合経営者育成研修会」が開催され、県内の森林組合から22名が参加しました。  
 昨年11月2日に第1回目として、(株)エルライフコンサルティングの社会保険労務士 橋詰岳幸氏を講師に「経営者・幹部に必要な労務知識」と題し

て、労働時間管理や休日管理の問題、ハラスメントやメンタルヘルス・業務上災害の問題についてグループワークを交えた研修が開催され、第2回目の今回は、税理士法人田中事務所の税理士・MBC（経営学修士） 田中義晴氏を講師に、「財務力を強化して自社経営を考える」と題して、税務判断に必要なスキルや、財務分析の基礎実務、資金を戦略的に運用する考え方について研修しました。

税理士としての活動だけでなく、飲食業や小売業など幅広く自ら経営に携わっていることもあり、豊富な経験から軽妙に語られる税務や財務のケーススタディを交えた講話は、とっつきにくい財務や税務の問題をポイントを押さえてわかりやすく解きほぐしてくれる内容でした。

一口に森林組合といっても、高性能林業機械や施設の保有数や業務のあり方も多様であり、その組合の状況や市場環境に合わせた戦略が必要です。

また、経営者として決算期だけでなく、1人あたりや時間あたりなどの原単位で現場を分析することが重要と述べられ、グループに分かれてのディスカッションでは当事者目線の真剣な議論がありました。

令和3年の森林組合法改正では実践的能力を有する理事の就任が求められており、森林組合のより一層の経営力強化が求められています。

協同組合職員交流集会



▲被災者支援のアイデア発表の様子

2月6日、JA長野県ビルにて「協同組合職員交流集会」が開催されました。長野県協同組合連絡会の会員であ

る県内の協同組合職員が、お互いの理解と連携を深めることを目的に催されており、今回はNPO法人長野県NPOセンター事務局次長の古越武彦氏を講師に「大規模災害時の被災者支援」をテーマに講演とワークショップが開催されました。

県内の会員協同組合から28名が参加し、元日に能登半島地震が発生したこともあり関心が高く、避難所での支援を検討するワークショップでは、各団体の業務を活かしたアイデアが発表されました。また、会員が参加している長野県災害時支援ネットワークの石川県での活動報告もありました。いつどこで起こるかわからない大規模災害に、日頃から備えていくことが大切と改めて考えさせられました。

森林のクロスワードパズル

長野の林業 No.391 (2024年1月号) 掲載

1ジ	2ア	3イ	4エ	5カ	6ギ
ン	7ナ	8ス	9キ	10ギ	11オ
12カ	13ジ	14マ	15グ	16ロ	17ス
18カ	19ヤ	20ブ	21キ	22ウ	23ク
24レ	25ン	26ト	27セ	28ン	29ト
30カ	31ン	32ウ	33ハ	34ツ	35ク
36ル	37ポ	38ウ	39ガ	40コ	41シ
42ブ	43ガ	44ワ	45ウ	46ン	47セ
48イ	49ビ	50ゴ	51ト	52ウ	53ム
54シ	55エ	56レ	57ン	58ジ	59ン

キーワードは？

A B C D E F G  
 ウ ッ ド チ エ ン ジ

たくさんのご応募ありがとうございました♪



# 未来へと 広がれ緑 この手から

令和6年度  
国土緑化運動標語

一般社団法人

## 長野県林業センター

理事長 藤原 忠彦 副理事長 水本 豪  
副理事長 宮崎 正毅 常務理事 宮 宣敏

## 長野県森林組合連合会

代表理事長 藤原 忠彦 副会長理事 林 和弘  
代表理事専務 村松 敏伸

## 長野県林業団体協議会

会長 村松 敏伸 副会長 藤原 忠彦  
副会長 宮崎 正毅 副会長 水本 豪

## 長野県木材協同組合連合会

理事長 宮崎 正毅 副理事長 麥島 照幸  
副理事長 佐原 良彦 副理事長 峯村 宗次  
副理事長 都築 透 専務理事 柴田 昌志  
副理事長 新井 藤弘 事務局長 松本 寿弘

## 林業・木材製造業 労働災害防止協会 長野県支部

支部長 宮崎 正毅 幹事長 柴田 昌志  
副支部長 高田 幸生 事務局長 田中裕二郎

## 信州木材認証製品センター

理事長 宮崎 正毅  
副理事長 鈴木 吉明 専務理事 柴田 昌志  
副理事長 高田 幸生 事務局長 松本 寿弘

一般財団法人

## 長野県林業労働財団 長野県林業労働力確保支援センター

理事長 丸山 勝規

「森林・林業の総合アドバイザー」

一般社団法人

## 長野県林業コンサルタント協会

理事長 羽田 健一郎

## 長野県治山林道協会

会長 羽田 健一郎 役職員一同

## 長野県森林組合長会

会長 林 和弘

## 長野県山林種苗協同組合

理事長 神戸 直日

## 長野県水源林造林協議会

会長 白鳥 孝

## 長野県造林協会

会長 藤原 忠彦

## 長野県林業薬剤防除協会

会長 牧 司

損害保険代理店・環境事業計画施工・墓石

## 株式会社 モリレン長野

## 宮澤木材産業株式会社

代表取締役 宮澤 遙



私達も緑化推進運動に協力しています。



# まだかなと自分で植えた木 背比べ

令和6年度  
育樹運動標語

## 佐久森林林業振興会

役職員一同

## 上小林業振興会

会長 羽田 健一郎 役職員一同

## 諏訪地域<sup>もり</sup>森林づくり ・林業振興会

役職員一同

## 上伊那山林協会

役職員一同

## 下伊那山林協会

役職員一同

## 木曾山林協会

会長 大屋 誠 役職員一同

## 松本地域森林林業振興会

役職員一同

## 長野地方緑化推進委員会

役職員一同

## 長野国有林森林整備協会

会長 由井 正隆  
副会長 林 和弘  
専務理事 酒井 省三

長野市大字稲葉字母袋沖 612-2 ☎026-285-9070

## 日本林業土木株式会社

長野出張所 所長 両角 実

長野市中御所岡田町 30-16 ☎026-227-6185



一般社団法人

## 日本森林技術協会

長野事務所 所長 油井 章次郎

長野市中御所岡田町 30-16 ☎026-217-2660

カラ松日本一を目指します

## 東信木材センター協同組合連合会

理事長 藤原 忠彦

小諸市甲字鞍掛 4747

## 信濃化学工業株式会社

代表取締役社長 小野 大輔

長野市桐原 1-2-12

## 瑞穂木材株式会社

代表取締役 宮崎 正毅

下高井郡木島平穂高 3228-1

## 有限会社 高遠興産

代表取締役 林 敏行

伊那市山寺 1558-1

## 平澤林産有限会社

代表取締役 平澤 照雄

伊那市西春近 4105



# 未来へと 広がれ緑 この手から

令和6年度  
国土緑化運動標語

## 南佐久北部森林組合

代表理事 佐々木 勝 役職員一同  
組合長

## 南佐久中部森林組合

代表理事 黒澤 和夫 役職員一同  
組合長

レストラン 四季の味 樹木里

## 南佐久南部森林組合

代表理事 由井 明彦 役職員一同  
組合長

緑を育て山を守る

## 佐久森林組合

代表理事 山岸 喜昭 役職員一同  
組合長

緑の担い手

## 信州上小森林組合

代表理事 石井 公彦 役職員一同  
組合長

## 諏訪森林組合

代表理事 藤森 良隆 役職員一同  
組合長



もりもり上伊那

## 上伊那森林組合

代表理事 白鳥 孝 役職員一同  
組合長



## 飯伊森林組合

代表理事 林 和弘 代表理事 吉澤 悦史  
組合長 常務 役職員一同

信州根羽すぎ・根羽ひのき

## 根羽村森林組合

代表理事 大久保 憲一 役職員一同  
組合長

## 和合森林組合

代表理事 村澤 博光 役職員一同  
組合長

## 木曽南部森林組合

代表理事 坂家 重吉 役職員一同  
組合長

## 南木曽町森林組合

代表理事 堀 賢介 役職員一同  
組合長

## 松本広域森林組合

代表理事 吉田 満男 役職員一同  
組合長



## みどり産業株式会社

代表取締役 篠原 明

本社 長野市稲葉2413-3 ☎026-224-8708

## 北アルプス森林組合

代表理事 割田 俊明 役職員一同  
組合長

## 長野森林組合

代表理事 和田 智 役職員一同  
組合長



私達も緑化推進運動に協力しています。



# まだかなと自分で植えた木 背比べ

令和6年度  
育樹運動標語

## 北信州森林組合

代表理事 山崎 明 役職員一同  
組合長

## 栄村森林組合

代表理事 久保田 道一 役職員一同  
組合長

## 南安曇木材協同組合

組合理事長 佐原 良彦  
安曇野市穂高 7940 番地 27

## 木曽森林組合

代表理事 原 久仁男 役職員一同  
組合長

## 木曽官材市売協同組合

理事長 勝野 智明

## (株)中部森林技術コンサルタンツ 長野支店



支店長 長谷川 洋  
長野市大字稲葉中千田沖 2040-2 ☎026-224-8710

## 齋藤木材工業株式会社

代表取締役社長 齋藤 健  
小県郡長和町古町 4294

## 信州の木認証合板で 地産地消の緑の循環

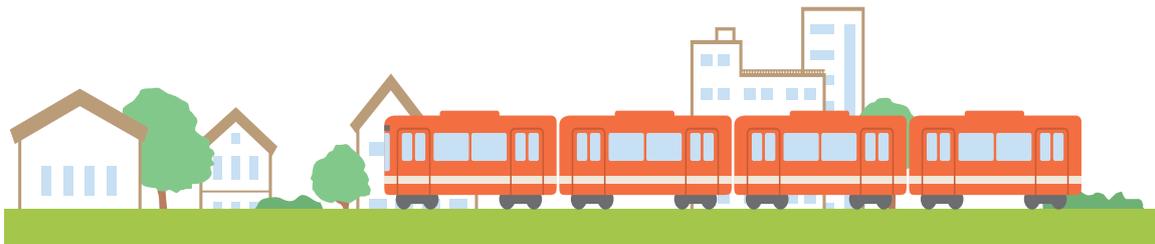


針葉樹合板のパイオニア  
林ベニヤ産業株式会社

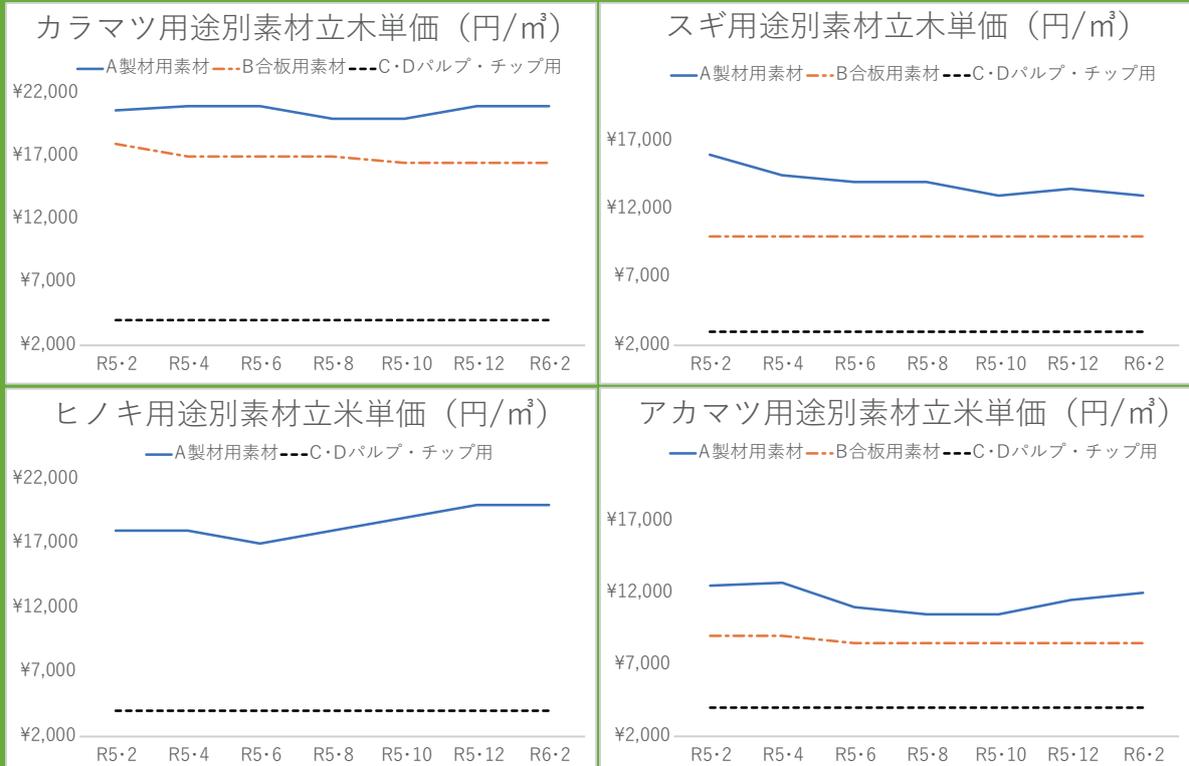
(本 社) 06-6228-1401  
(七尾工場) 0767-52-4376  
(舞鶴工場) 0773-68-0306  
(北陸営業所) 0767-52-4376

## 株式会社 吉 本

代表取締役 由井 正宏  
南佐久郡佐久穂町大字平林 121



# JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

暖冬との予報ながらも局所的な積雪で県内各地の交通等に影響があった冬でしたが、早くもスギ花粉が飛散し始めているなど、春の兆しを感じている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、2月の各木材センターの市況ですが、カラマツ・スギ・ヒノキの製材合板向け丸太の価格は横ばいですが、需要は持ち直しつつあるようです。製材用ヒノキは不足感があり若干の値上がり傾向となり、針葉樹の土用材向けは地場での需要が堅調です。

広葉樹は伐り匂ということもあり、良材に引き合い活発でした。特に広葉樹祭りを開催した中信木材センターでは、キハダやクリの大径良材に高値が付きました。

各木材センターでは、市況を見ながら需要に合わせた仕分け・はい積みをしてまいりますので、これから伐採、出材を計画されている方はご相談ください。

引き続き集荷のご協力よろしくお願いいたします。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得したうえで、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いいたします。



▲中信木材センターに出品されたキハダ

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連